

平成29年度第5回小田原市学校教育振興基本計画策定有識者会議 会議録

- 1 日時 平成30年1月31日（金）午後5時30分から午後7時30分  
場所 おだわら市民交流センターUMECO 会議室2・3

2 出席者の氏名

玉川大学大学院教授	笠原陽子
秦野市教育委員（教育長職務代理者）	望月國男
公募市民	綿引いづみ
小田原市教育長職務代理者	和田重宏
小田原市教育委員	萩原美由紀
小田原市教育委員	吉田眞理
小田原市教育長	栢沼行雄
小田原市小学校長会長	穂坂明範
小田原市中学校長会長	岩崎由美子
小田原市公立幼稚園長会長	鈴木晶子

3 説明等のため出席した教育委員会職員の氏名

教育部長	内田里美
教育部副部長	友部誠人
教育総務課長	飯田義一
学校安全課長	川口博幸
教育指導課長	菴原晃
教育指導課指導・相談担当課長	高田秀樹
教育指導課専門監	秋山和美
教育指導課指導主事	川口宏美
教育指導課指導主事	中山晋

（事務局）

教育総務課総務係長	高瀬聖
教育総務課主査	室伏政志

4 議題等の概要

- (1) 目指す教師像について
- (2) 市民意見公募等について
- (3) 計画の進行管理について
- (4) その他

教育部副部長…定刻となりましたので、ただいまから、第5回小田原市学校教育振興基本計画策定有識者会議をはじめさせていただきます。本日、進行を務めさせて頂く教育部副部長の友部でございます。よろしくお願いいたします。本日は、重松先生と教育委員の森本委員が御欠席の御連絡を頂いております。本日の終了時間は19時頃で予定しております。それでは時間が限られておりますので、早速会議に入らせて頂きます。はじめに栢沼教育長から御挨拶を申し上げます。

栢沼教育長…皆様こんばんは。おかげさまでこの会を重ねること、本日5回目ということで最終回となりました。これまでの間、委員の皆様には、本市の重要な基本方針の策定に当たって貴重な御意見を頂き、大変ありがとうございます。皆様の御意思、御意向に沿った改定に向け、事務局の方もやってみりました。今日は最終回ということで、いくつかの案件がございますが、ぜひ最後の詰めとして、限られた時間ですが、御意見、御指導を頂ければと思っております。よろしくお願い申し上げます。

教育部副部長…ありがとうございました。それでは、議事に入ります前に、本日お配りしている資料の確認をさせていただきます。次第、名簿、席次のほか、資料1として「目指す教師像」について、資料2-1として「小田原市学校教育振興協議計画会計に対する市民意見の募集結果」について、資料2-2として「有識者・学校関係者からの意見」、参考資料1として「今後の予定について」、参考資料2として「小田原市学校教育振興基本計画策定スケジュール」となっています。不足等ございましたらお申し出下さい。よろしいでしょうか。それでは、議事の進行につきましては、座長の栢沼教育長にお願いいたします。

栢沼教育長…それでは、早速、議事進行を務めさせていただきます。はじめに、議題(1)「目指す教師像について」ですが、「目指す教師像」につきましては、計画の改定素案を作成する段階で重点方針7の学校教育の中に記載を加えているものでございます。しかしながら、この「目指す教師像」の内容につきまして、これまでの会議でも議論はしておりませんでしたので、本日議題として挙げさせて頂きました。また、望月先生からも「目指す教師像」につきましては、御意見を頂戴しているところでございます。それでは事務局からまずは説明をお願いします。

教育指導課長…教育指導課長でございます。資料1を御覧下さい。まず現在の「目指す教師像」から話をさせていただきます。現在、「目指す教師像」として、小田原市教育委員会では5点掲げております。例えば一つ目の教師像の中に愛情と情熱という言葉がありますが、その言葉が教育指導の重点の中にも反映されております。二つ目の教師像には実践的指導力という言葉がありますが、その言葉が同様に反映されております。

今回の計画改定に伴いまして、それをどのようにするかということで、この後お話しさせて頂くのですが、資料を見ていただくと、子どもありきの先生という言葉と、

子どもを信じぬく先生という言葉があると思います。この言葉が入ってまいりましたのは平成28年です。平成27年度から栢沼教育長が、この二つの言葉を各学校に御自身の信念・教育観ということで、お話されたのが平成27年度からですが、実際に教育指導の重点に位置付いたのは平成28年度になります。

そして、今回の改定に向けた考え方としましては、教育指導の重点に示されておりますこの子どもありき、子どもを信じぬくという表現をまずはキャッチフレーズとしてこれまで各学校・園の皆様にお示ししてきているものですので、ここは特に大切にしていきたいと考えています。子供の立場に立った発想に変われるかどうか、大人は自分の感情やエゴを横に置き真摯に子供たちの声に耳を傾けることができるかどうか、先生方一人ひとりが常に自分自身に問いかけ続けて欲しいことの一つ目として、「子どもありきの先生」でございます。

もう一つは、子供一人ひとりの素晴らしさや可能性をどこまで先生方は信じているか、もともと子供はより良くなりたいと考えている存在なんだということを感じているかという、原点になるような問いかけでございます。

この二つをキャッチフレーズとして、全ての教育観、教師観を印象付ける表現として掲げたいと思っております。

二つ目に、望月先生からも御指摘頂きました「授業力」ですが、教師は授業が本分であり、教師としての根幹であるとの御指摘と受け止めています。これまでの「目指す教師像」では、いろいろな要素が散りばめられて混ざっていて、人間性や人格的資質の部分や、授業力、実践力、指導力などの専門的な部分が混じり合っているのではないかとということで、整理をしてきたいと思っています。

ここで、資料の「目指す教師像(案)」を御覧頂きたいと思います。まずは、子どもありきの教師、子どもを信じぬく教師を一番上に掲げます。この二つのキャッチフレーズの下、その要素としてこれまで五つあった教師像・目指す子ども像を類型化して、具体的な姿として三つに整理させて頂きました。

一つ目が「教職に対する使命感をもった教師」。二つ目が「豊かな人間性を備えた教師」、三つ目が「授業力を磨き続ける教師」ということでございます。

国・文部科学省では、一つ目は「教職に対する情熱」。二つ目は「専門家としての確かな専門性」、三つ目は「総合的な人間力」、いわゆる人格的資質というところで、この三つに国は分類しております。神奈川県につきましては、一つ目に「人格的資質・情熱」という分類をしております。二つ目が専門性という意味で「指導力」と、大きくこの二つに分類しております。小田原市としましては、まずは「使命感」と「人間性」と高い専門性のある「授業力」を磨く教師ということで、今まで五つあったものを三つに整理し、小田原市の教師像となるよう教育委員会はサポートしていきたいと思っております。以上でございます。

栢沼教育長…ありがとうございました。私どもといたしましても、先ほど教育指導課長から説明申し上げたような考えの下で設定した「目指す教師像」ではございますけども、

これを機会に皆様から参考に御意見を頂ければと思いますがいかがでしょうか。

望 月 氏…教師の機能は二つあるわけです。一つは、「教科担任としての機能」、それから「人間担任としての機能」として二つの機能があります。それから、よく私たちは資質能力という言葉を使いますが、資質とは何なのか、能力とは一体何なのかということを考えなければならないと思います。資質というのは人格性・人間性の部分で、能力というのはいわゆる知識・技能の伝達というわけです。そういうことから見ていくと、「教科担任の機能」所謂能力の部分が欠けているのではないかと思います、一つ付け加えさせて頂いた経過があります。

栢沼教育長…そういった意味で新たに追記させて頂いた部分です。他にどうでしょうか。

和 田 委 員…この三つに集約されるとも思いますが、教育現場での先生たちの能力で、特に大事だと思うことは、状況が刻々と変化する中で即応出来る判断力と思っています。ある場面が生徒の中で起きた場合にはこうすべきじゃないのかというものを我々世代は思うわけですが、今の現場の先生を見ると、その能力に欠けている気がしています。どこかに含まれているのかもしれませんが、気になる点を申し上げました。

栢沼教育長…いかがでしょうか。

教育指導課長…和田先生が仰ったことは、使命感であったり人間性であったり、授業力という専門性の部分であったり、全てに関わる話だと思っております。ありがとうございます。

栢沼教育長…他に御意見等をお願いします。

綿 引 氏…コンサルティングをやっていて、目指す姿を出す時には、和田さんが仰られたように、課題があってそれに対して対応するという考えをします。今、こういう子供たち、教師であるから、3年後や5年後にはこういう姿になっていくという考えです。

多分、使命感という言葉は抽象度が高すぎて、使命感の中の何が足りないと言った方が、当事者の教師の方たちも分かりやすいと思いますし、私たち親としても、そういう姿を目指されている先生の下に子供を預けるとわかりやすいです。

また、自分はまだ子供を小学校には預けていませんが、やって頂きたいのは子供にやる気やモチベーションを起こすことと、自己肯定感を高めるということだと思います。やる気スイッチを押して頂いたり、クリエイティビティのあるアプローチをして頂いた先生が私の中でも印象に残っています。

授業力を磨き続けるというところでも、新しい授業方法など積極的に取り入れて、

子供たちに学ぶことは楽しいということを伝授して世の中に送り出すとか、子供が勉強しないのはつまらないと思っているからであって、学ぶことが世の中とつながっていることを、専門家の方たちに工夫してやって頂けると一番ありがたいと思います。

笠原 氏…「目指す教師像」というのは、対にあるものとして「目指すべき子ども像」があって、その子ども像を実現するためにこういう教師を求めたい、つまり今文部科学省が言っている教員の育成指標からいうと、小田原市が求めたい教員の姿なわけです。だから、ここに示された「使命感」「人間性」「授業力を磨き続ける」というのが、小田原市が求めている教員の像と受け取りました。

2015年12月に、三つの答申のうちの一つの答申で教員の資質能力等々について言及されているキーワードで言うならば、「高度専門職業人」「授業力」「学び続ける」という三つが、出てきています。その文章を読んでいくと、「使命感」や「人間性」というのは、ある意味当然教師に求められる資質能力の前提であると整理されています。

そういう前提の下で、これから2020年、2030年を見据えた時に、和田委員が仰ったように、社会の変化に対応出来る柔軟な対応力のようなものが、これからますます求められてくるわけです。

そうすると、教育指導課長の説明にあった使命感や人間性が入っているかということ、少し違うと思いました。

つまり、「使命感」だとか「人間性」というものはそもそも教師として持つべき前提のものとなった時には、これからの変化に対応出来るどういう力を求めるのかというのは明確にあった方が良さだろうと思いました。

それから、「授業力」というのは一つのキーワードで、望月さんが仰った指摘は非常に重要だと思うので、これは置いておく必要があるだろうという気がします。そのあたりを整理されると、これから求められるものがこの三つで整理出来るのか、それとも、二つを一つにしてもう一つ追加するのかというあたりで、皆様の御意見が必要になってくると思います。

栢沼 教育長…現場の方から諸先生方どうでしょうか。

岩崎中学校長会長…小田原市は子どもありき、見捨てないというところからの子どもを信じぬくというのは、キーワードとして常に聞いていることなので、私たちも学校経営計画を作る時にこれがあって、五つの「目指す教師像」があって、そこからキーワードを作りながら、うちの学校の実態を見て何が足りないかと考えます。

例えば授業力とありますが、今年、うちの学校ではもう少し教員自身で勉強しようといったことを表してみたり、使命感というところでは、なぜ教師になったのかという原点を大事にしながら子供としっかり向き合っ、子供が将来を担えるよう

な力を作ろうといったことを私は書きました。

ざっくりとした目指す姿から、それぞれの学校の先生の実態や子供の実態に合わせて作っていているという実感です。ただ、今先生方が仰られたように、当然、これから刻々と変わる社会情勢に対応し続ける柔軟性というのは、教員にとって大事なことだと痛感しますし、だからこそ自分の課題を見つけて、学んでいく先生であって欲しいと思うので、御指摘は大事にしていかなければいけないと感じます。

穂坂小学校長会長…先ほど笠原先生が、「目指す子ども像」と対であると仰ったことは確かにその通りだと思えます。これから学習指導要領が小学校で全面改定し、中学校もそれに続き、高等教育の方でも大学入試のあり方など大きく変わろうしている中で、課題解決能力みたいなことが子供たちにとって重要な能力であり、それを育てていかなければならないということを考えていくと、教師も課題解決能力がしっかりなければ駄目なのだろうと思えます。また岩崎さんも仰ったように、先の見えない今の世の中で一人ひとりの子供を見据えながら、子供を信じぬきながら対応解決し、育てていくことが必要かと思えます。

栢沼教育長…ありがとうございます。教育委員の方でどうですか。

萩原委員…多様性を教師が受け入れるというようなところが、どこかに入ればと思えますが、豊かな人間性を備えた教師の中に入るのでしょうか。社会性や対人関係能力の資質を備えているというのは、多様性をどう受け入れられるかというところに行き着くと思えます。子供と一緒に伴走しながら少しリードして下さる先生が理想と個人的には思いますが、それが良い表現になればと思えます。

栢沼教育長…ありがとうございます。吉田先生お願いします。

吉田委員…この目指す教師像を見たときにはそうかと思いましたが、今の皆様のお話を聞いていますと、確かに仕事に対する使命感は教職員でなくても持つべきものですし、豊かな人間性も人としての部分であると思えます。目指す教師像の内容を総花的なものにするのか、かなり焦点をつけて特徴化をしていくかというあたりで、どちらにするかによってこの文章は変わってくると思えます。どれが相応しいのか決めていかないと、上手くまとまらないと思えます。

栢沼教育長…現状の教師像の課題と言いますか、小田原市の先生方の実態といったところから、もう少しこういう方向に向かって欲しいという部分と、これからの時代の子供を育てるには、こういう先生を目指していかなければいけないという両面があるように感じます。そのあたりをどう整理するかというところがあります。

ただ「学び続ける」ことや「授業力」など共通しており、またいくつかの対応力や

多様性などをどのように一つの言葉で収めて整理するのかという点では、今日の御意見を参考にさせて頂き、検討していくということで御了解頂けますでしょうか。

望 月 氏…はい。平成27年度中期方針の答申が最近の一番の答申の内容ですから、これをもう一度吟味してみて下さい。この答申は道徳の教科化、英語が入るなど複雑に絡み合っており、それに対応するために教師というのは探究心を持って学び続けなければならないということですから、このあたりを要約版でもう一度読んで頂ければ、イメージが膨らむと思います。

それから、例えば、「授業力を磨き続ける」とあり、そこに学級指導等という言葉が使われているところはよく分からないところです。別の表現にした方がよろしいかと思います。

教 育 部 長…目指す教師像についてはいろいろな議論をさせて頂いており、ただいまの御意見の中にもありました、人格的な部分というのは社会人、職業人として本来持っているべきであり、社会性も使命感も当然持っているべきもので、本当に教師に必要なものとはどのようなものなのかをもう一度議論しようという話もありました。

ただ、先ほど教育長が仰ったように、今の小田原市の教師の課題をもう一度考え直し、「このような教師になって欲しいという像」は絶対にあるというところから何度も繰り返し考え直したりする中で、抽象的な部分や具体的な部分が織り交ざってしまった部分はあります。

いろいろなものを入れすぎたり細かく書けばかえって分かりにくくなったり、それだけを目指せば良いということになってしまうという懸念もありますし、逆に抽象的である方がそれぞれ学校で実態に合わせて考え、学校の経営計画を立てる時に活かしていく考えもあります。委員の方々から頂いた御意見等を参考に考えたいと思います。

教育指導課長…確認させて頂きたいのですが、三つ目の「授業力」のところに、いわゆる専門性や課題解決力の部分、社会の動向を見据える力、多様な教育的ニーズに対応する力などを、例えば「高い専門性が備わった教師」という括りにして、その中に授業力も含めて特に整理させて頂くというようなところでしょうか。

栢 沼 教 育 長…いかがでしょうか。

笠 原 氏…今回の学習指導要領が、今までの学習指導要領の捉え方からすると大きく変わっていることをベースに考えると、計画期間の5年間をみてこれをやるということではなく、2020年、2030年という先を見据えてどうするかという視点で考えることが必要です。それから、教員の資質能力についても、今の課題はもちろんそうですが、これからどういう教師が求められるのか、育っていくべきその先にある

子供たちの状況にどれだけ応えられるのかという視点で見ているわけです。

ですから、そこを押さえた上で、この計画の中でどうあるべきかという視点に立つ必要があると思います。市民の方たちの方がもっと先を行っていますから、小田原市の教師像はそれで良いのかと指摘されてしまうのではないかという気がします。

最終的にどういう言葉を選ぶかというのはあるかと思いますが、基本的な考え方のスタンスとして、そこは外せないのではないかと思います。

教育指導課長…わかりました。今回も文科省の「教師に対する揺ぎ無い信頼を確立する」という教師像、これも新学習指導要領に唱えられた教師像でございます。こういった力は、委員の皆様も仰って頂いたように、いろいろな専門的な能力が必要だと捉えておりますので、こういったところも加味して考えていきたいと思っております。

栢 沼 教 育 長…これからの将来はこのような資質を持った教員を育てていかなければならないという視点からと、現状の課題を克服していくためにこういう教師を目指すという視点からの両面があるので、もう一度それらを含めて、現状の課題も踏まえながら基本的には将来的な目指すべき教師像にむかっていくということは示していかなければいけないと感じました。それらを含めてどうでしょうか。

教育指導課長…御指摘頂きました様々な資質能力の部分を全て表すと大変の量になってしまうので、なるべく端的に、小田原の教員となった以上こういった誇りを持って欲しいとか、こういう専門性を持って欲しいというようなところを、まとめていきたいと思っております。ありがとうございます。

望 月 氏…小田原の生徒の実態や地域の実態などは、皆様が一番分かっているとしますので、我々は今の教育の流れや、本質から考えるとこれを入れた方が良いのではないかということは言わせて頂きましたが、最後は出た意見等を参考にさせていただきながら、お任せをします。

栢 沼 教 育 長…それでは、議題2の「市民意見公募等について」事務局から説明をお願いします。はじめにパブリックコメントで寄せられた意見からお願いします。

教育総務課長…それでは資料2-1を用いまして、パブリックコメントに寄せられました意見、又は意見に対する考え方につきまして説明させていただきます。まず意見の数につきましては、2の結果の内容に記載いたしました全部で40件、意見を提出された方は13人で行いました。意見の概要と市の考え方につきましては、2ページから記載しておりますが、意見を踏まえて反映したものをA、意見の趣旨がすでに反映されているものをB、今後の検討のため参考にするものをC、その他をDというように区分しております。

2ページを御覧下さい。(1)の計画の内容に関する御意見につきましては、主なものを紹介させていただきます。まず1番は、学校に設置している太陽光発電については、環境の啓発としては、学校でわざわざ行う必要はないのではないかというものでございますが、太陽光発電施設は基本的に事業者が設置しているものでございまして、このような意見があることを受け止め、参考にさせて頂くという趣旨でCと区分いたしました。3番から5番については図書館との連携、生徒と教師の関係、給食の安全性に関する御意見ですが、それぞれすでに計画に反映されている御意見ですのでBと区分いたしました。7番から10番につきましては、放課後児童クラブの延長等についての御意見でございますが、現状では対応困難であり計画に位置付けるのは難しいため、Cと区分いたしました。15番16番、ページをめくって18番19番につきましては、市立幼稚園での3歳児保育や幼稚園の施設整備に関する御意見ですが、市立幼稚園のあり方に関しましては、平成28年に策定した「今後の公立幼稚園のあり方に関する基本方針」に基づき進めていくこととしておりますことから、Cと区分いたしました。

4ページの22番につきましては、教育委員会の広報の充実の主な取組として挙げております「教育研究所所報」について、位置付けが違うのではないかという御意見でございましたが、「教育研究所所報」は教育課題を明らかにする調査・研究の推進に位置付けることの方が適当であると考えまして、計画を修正するということでAと区分いたしました。

5ページから6ページにかけての(2)につきましては、字句ですとか表現に関する御意見でございますが、こちらにつきましては適宜修正を行うことといたしました。

6ページでございます、(3)その他につきましては、子供の貧困や居場所作り、保育の受け皿確保など、学校教育分野以外の計画等で主として取り扱うべき分野の御意見や有識者会議の組織の在り方についての御意見でございまして、これらにつきましてはその他質問などとして区分いたしております。

以上の結果、1ページの総括表にございますように、意見を踏まえ反映したものが7件、意見の趣旨がすでに反映しているものが10件、今後の参考とするものが15件、その他が8件となりました。私からの説明は以上となります。

栢沼教育長…ありがとうございました。パブリックコメントで寄せられた意見、意見に対する本市の考え方として説明がございましたが、市民意見等につきまして皆様からお気付きの点、あるいは感想等ありましたらお願いいたします。

萩原委員…よろしいですか。太陽光発電のことですが、小学校というのは広域避難所になるわけで、そういった時にバックアップ電源として使えるということで、小学校に置いとくというあたりも、ここに説明してはどうかと思いました。

栢 沼 教 育 長…ただいまの意見はどうですか。

教育総務課長…環境に関する啓発としては必要ないという部分に対してお答えしているというところでは。

栢 沼 教 育 長…続いて、資料 2 - 2 の有識者・学校関係者からの意見についてお願いします。

教育総務課長…それではパブリックコメントに並行いたしまして、有識者の皆様や学校関係者から計画に対する御意見を伺っておりますので、それに対する対応について説明いたします。

資料 2 - 2 を御覧頂きながら、併せて計画素案も御参照頂ければと思います。

まず一番上は計画の構成についての御意見でございます。計画素案の 2 ページをお開き頂きたいと思っております。4 の計画の位置付けの中に「おだわらっ子の約束」が位置付けられていないと御指摘頂きますとともに、15 ページに記載しております「小田原市教育大綱」や「おだわらっ子の約束」と本計画の関係につきましては、2 ページに記載していくべきという趣旨の御意見がございました。御指摘頂いたような構成にすることで、シンプルで分かりやすくなると事務局としても判断いたしましたことから、構成を大幅に修正させて頂きたいと考えております。

次の 2 番目は表現についてで、御意見を踏まえ修正させて頂くこととしております。

3 番目の御意見につきましては、計画素案 23 ページの計画体系図の再掲に関する御意見でございます。星印でいくつか再掲であるというものを表示しておりますが、いくつか不足しているところがあるのではという御意見でございます。再掲につきましては、計画の本文に再掲の要素が具体的に記載されているものについて表示することにいたしまして、その観点から見直しをし、漏れている部分につきましては体系図にも追加して修正をしたいと考えております。

4 番目の御意見につきましては、24 ページの「おだわらっ子の約束」の推進に具体的な取組がないというものでございます。「おだわらっ子の約束」は、制定当初の集中的な普及啓発段階を終えまして、日常的に活用していく段階となっていることから、現在、普及の取組は各学校で実情を踏まえて実施しており、予算付けした事業がない状況になっております。このようなことから、主な取組自体の記載がないという状態であるわけではございますが、ゼロ予算で行っているものも含めまして記載をいたしたいと思っております。

5 番目は、先ほど議論をお願いいたしました教師像に関する御意見でございます。

2 ページを御覧下さい。6 番は幼稚園・小学校・中学校と地域の連携事業は、1 日を示す「デイ」では短いのではないかと御意見ですが、御意見を踏まえて修正をすることといたします。

次は字句、表現に関する御意見でございます。4 番目につきましては、小田原市

の用字用語例に倣って記載しておりますことから修正はいたしません、その他につきましては御指摘に沿った修正を進めさせて頂きたいと思っております。

次に3ページの学校関係者からの御意見でございます。2番目の就園前の幼児に関する情報の連携についての御意見につきましては、計画書の49ページの「様々な悩みを持つ子どもや家庭への支援に取り組みます」という中で、関係機関との連携を推進するという記載がございまして、反映出来ていると考えております。3番目の御意見は、教職員の健康対策の推進のための会議や調査、出張などの精選についての御意見ですが、これは計画書45ページの「会議や研修会等の効果的な運営に努めます」といったところに反映出来ていると考えております。4番目の御意見「インクルーシブ教育の推進」が急務であるというものでございますが、こちらも計画書48ページの「インクルーシブ教育の推進のため、校内体制の充実を図ります」等の中で反映されていると考えております。

資料の4ページを御覧下さい。5番目の御意見である校庭の芝生化よりもその予算を他の事業にまわしたらどうかという御意見でございます。芝生化につきましては、児童の運動における安全性や体力向上、砂塵防止など様々な効果を期待出来ることから実施しているもので、そのような御意見があることを受け止めまして、今後の参考にさせて頂くこととしました。次の字句・表現等に関する御意見につきましては、御意見に沿って修正を行ってまいります。私からの説明は以上です。

栢沼教育長…ありがとうございました。有識者の皆様、学校関係者からの意見等について説明を頂きました。皆様から何かありますでしょうか。特になければ、この素案についてはこれをもとに、直させて頂くということで御了承頂けますでしょうか。それでは最後の議題になりますが、議題3「計画の進行管理について」事務局から説明をお願いします。

教育総務課長…それでは、計画素案の57ページ、58ページをお開き下さい。本計画の推進にあたっては、各学校の経営計画に反映していくことと、市長部局との連携を図ることを基本に、1として進行管理、これは法律に基づく点検評価を活用することとし、2として成果指標については、子ども像で重視する五つの側面の伸長を図ることを目的に、全国学力学習状況調査等の調査項目を中心に指標を設定いたしました。

本計画の進行管理は教育委員会事務の点検評価を用いていきますが、本市では平成20年度から実施しております。点検評価をスタートした時には、教育委員会の88の事務事業について、数年間で全件点検するという方針でスタートしました。

全件の点検が終了した平成27年度からは、その年に力を入れている事業や課題があるものからピックアップして実施する方法と改めまして、29年度は、振興基本計画の10の基本目標ごとに1、2件事業をピックアップするとして、全15事業を点検評価の対象とする方法で進めてまいりました。

教育委員会の事務は、市長の補助執行事務など、学校教育振興基本計画に位置付

けられたものだけではありませんが、事務の多くを占める学校教育関係については今回の計画改定により、計画の体系や成果指標が改められることとなります。こうしたタイミングを捉えて、点検評価の方法について見直す必要があるのではと考えており、今後、点検評価の検討をするに当たり、有識者の皆様からアイデアなど頂戴できればと考え、議題とさせていただいたものです。

多岐に渡る事業の全件を毎年点検することはできませんので、事業のピックアップ方法、例えば各分野から広く行う方法があると思いますし、特定の分野を集中的に行った方が良いのではないかと、また特定の分野からピックアップするのであれば、どういう視点でピックアップするのが適当なのか、成果指標を伸ばすのに資する点検評価の在り方など、点検評価をより効果的に実施していくためのヒントやアイデアを頂戴できればと考えているところでございます。私からの説明は以上です。いろいろな御意見を頂戴出来ればと思います。よろしくお願いいたします。

栢 沼 教 育 長…この進行管理等については、計画の推進にあたり、効果的な点検評価の在り方や目指す子ども像の五つの側面の伸長との関係で点検評価をどのように機能させていったら良いかということですが、いかがでしょうか。

萩 原 委 員…評価をした事業が次の年にどうなったのかが気になります。いまいち分からない状況が続いている気がします。

栢 沼 教 育 長…点検評価が単年度で終わってしまい、次の年度は他に事業に移ってしまうということですね。

栢 沼 教 育 長…吉田先生はいかがですか。

吉 田 委 員…評価する時に、いつも抽象的で何となく上手くいっているという振り返りが多いので、評価指標はしっかり設定した方が良いと思います。その評価指標も、この事業だったらこの点というワンポイントではなくて、多面的に評価するような指標があって、感想ではなく数値として見ていけるような設定が出来ればと思います。数値に出来るものだけを評価指標にしてしまうと、評価として視点が違ってしまいかもしれませんが、そうではない指標で、この点はどうかというように評価をして、ポイントを入れていくようなことが出来るのではないかと思いますので、評価指標をそれぞれの事業にいくつかのポイントを入れれば分かりやすいです。評価指標の手前に、今年度の評価指標はここまで行いましたというのがありますが、5ヶ年や単年度でどのあたりまで行うのかということも目標付けて、目標から遠く離れてしまっているものは、どうしてそのようになったのかを検討し、今後どうするか考えるようになれば、進行管理にはなると思います。

教育総務課長…最初に目標を立てる時点で、やらなければならない事業が相当数含まれている中で、達成可能なところを狙ってしまっている事業は多くあると感じております。義務的でない事業まで点検評価の対象とすることは委員の皆様にとっては負担になってしまうことや、政策的に有効なものをどう事業としてまとめて集中的に点検評価、進行管理をしていくかという視点が必要であると思います。

和田委員…以前は、現場にも行っていました。全てを回る必要ないと思いますが、特に点検評価の中で、ここは現場の声も聞いたら良い、実情を見たら良いという部分は残してもよかったのではないかと思います。説明だけを聞いて評価をするのがここ2年ほど続いています。一方で、今年度の点検評価では金銭的な面のことが明確に出ており分かりやすかったと思いました。

望月氏…目標値で心配なところが二つあります。(2)の命を大切にする心で、「自分にはよいところがあると感じている児童・生徒の割合」が、小学校で79.2%、中学校で71.6%を、85%にするのは相当な努力を要すると思います。なぜなら、良いところがあるのを認めるのは教員よりも地域の方が効果があり、小田原は小学校でコミュニティ・スクールの研究をしているから、その可能性は期待出来ると思いますが、お互いに相当なアイデアを出し合わないといけないと思います。ここを高い目標値にすると、達成できない場合には教員だけではなく、地域の方が挫折感を味わうことが怖いという点を踏まえた方がよろしいと思います。

それから、今住んでいる地域の行事に参加している児童・生徒の割合で、小学校は51.2%です。私は某中学校のコミュニティ・スクールの指定校と、ある県立高校のコミュニティ・スクールの指定校で、同じ項目でアンケートを地域の人にとりました。これから結果を出して分析をしますが、やむを得ないですが高校と中学校は大きく差があります。コミュニティ・スクールの研究しているところでも地域の行事に参加している児童・生徒は少ないです。

自治会でもアンケートをとった結果、意外に自治会長でさえもコミュニティ・スクールに関して知りません。地域の人知らないコミュニティ・スクールの成果も薄くなりますから、危機感を持ちました。いずれにしても、今住んでいる地域の行事に参加している児童・生徒の割合がこれだけ少ないのに、5年後の時に60%というのは大変だと思います。先ほどと同じく、教師だけでなく地域の人にも失望感が大きくなるという恐れがあると思います。

指導・相談担当課長…この成果指標の項目とその目標値については、以前の有識者会議の中でも御説明させて頂きました。研究されている望月先生の御意見なので、この数値の意味というのは先生が仰るとおりだと思います。目標値の設定にあたりまして、現状の数値が具体的な調査結果として出ており、それが基準となっていますが、現状の数値に満足せずに高めていかなければならないものということがありました。ふるさとへ

の愛のところも、小田原ならではの教育の中で一番大事にしている部分であり、これが半数以下の現状であるというところに留まっているので、小田原市としては目標値を半数より高くしていきたいという思いでした。先生が仰られる話を踏まえると、目標値が少し高いと実感しています。これは今後の検討課題だと思います。

教育総務課長…これを完全に確定している時点ではなく、御意見を頂きながら修正する段階でございます。地域行事についても、小学校・中学校で15%ほどの差があるものを押し並べて60%にするのは、目標として掲げるのはどうかと思いますので、御意見を踏まえながら最終的にどうするのか事務局の方で議論したいと思います。ありがとうございました。

綿 引 氏…自ら考え表現する力のところで、これは指標の調査で決まった質問項目だと思いますが、日本的な考え方の質問項目だと思います。協調性は他の面で大事ですが、多少のぶつかり合いがあっても、まず自分の考えをもつことの素晴らしさというか、自分の考えを持つことと友達の考えを受け止めることは切り離れた方が良いと感じました。

栢 沼 教 育 長…自己肯定感の分野、これは全国の学習状況調査の質問一式からとっているものですね。意味合いとしては、そういった子供でないといけないのかなと思います。笠原先生どうですか。

笠 原 氏…点検評価をするということの目的をどこに置くかということがあります。行政的な視点でいえば当然のことながら、予算を獲得して政策への実効性を高めていく、そのことで学校現場へ反映して学校教育の充実に繋げていくと考えた時に、目標値の置き方も含めていかに戦略的に考えていくか。そのためにどのような方法をとっていくか。平成29年から平成34年までに目標値を上げるために、どのような方法をどのようなタイムスケジュールで行っていくかを、教育委員会の中で整理をされて、ここに出されてくるわけです。その時に、目標値を短期・中期・長期でどこを目指すのか、そういった発想のなかで最終の目標を決めていかないと、最終目標だけがあるのは厳しいわけです。すべての事業に目標値は立てておかないと、行政として事業を行う上で市民に対する説明責任は果たせないと思います。大変ですが、目標値を決めるのは、事業の進行管理をする上で絶対必要で、目標があるから各学校も目標に向けて、もちろん、学校と行政の目標の資質は違いますが、整合性を持ちながら行うものなので、これは必要だと思います。

もう一つ、多面的に評価出来るというのは、とても重要なことだと思います。子供たちの学力をみる時にも、基本的な知識が身についたかということで、全国学力学習状況調査の全国平均に達しているかという大枠の部分と、学力を構成する自己肯定感であったり、集団への関わり方などが必要になってくるわけです。目標値を置

くときに、どれだけ他の目標値と関連を考えながら整理するかというのにも必要になってきますので、これだけで良いというのは難しいわけです。

全国学習状況調査の質問紙ですが、今回の学習指導要領の求めているアクティブラーニングというところの対話的で深い学びの場合、自分の考えをまず持った上で、仲間の意見を聞いて自分の考えを振り返って、また自分自身に戻ってくるということで、綿引さんの仰るとおりです。そのような視点を含めて考えていかないと難しいと思いますし、それを計る指標として何があるかというのは精査されないといけないと思います。指標を設定することの大変さはよく分かりますが、点検評価が求められた背景を考えると、そこは提示していかなければという気はしました。

栢沼教育長…ありがとうございました。現場から御意見はありますか。

岩崎中学校長会長…やはりゴールは見えるけど、スモールステップを見せて頂きながら、教員も全員でモチベーションを上げていくという方向に向かうと、目標値の意味が出てくるかと思います。

栢沼教育長…当然そこは必要になってきますよね。園長先生何かございますか。

鈴木公立幼稚園長会長…評価といういろいろな角度から考えていかないといけないし、そういったことを通して資質を高めていかなければいけないですし、とても難しいと感じています。

栢沼教育長…大きく変わる平成30年度スタートを前に、点検評価、各種事業に関する成果指標、それに対する視点・捉え方、これらについても御指摘・御意見頂き、ありがとうございました。それでは議題する内容はこれで終了いたしますが、皆様から何かございますでしょうか。無ければ議題4のその他を事務局からお願いします。

教育総務課長…それでは、参考資料をお配りしておりますので、今後の流れについて御説明いたします。今後の作業につきましては、先ほどの説明と重複しますが、パブリックコメント等の御意見や、本日の皆様からの御意見を踏まえて、計画本文の修正を進めていくとともに、写真の貼り付けや、用語解説など資料編の追加等を行いながら、最終的な計画を冊子として取りまとめ、計画を公表してまいります。

ここで参考資料1を御覧下さい。今後の予定でございますが、3月19日の教育委員会定例会で計画を承認して頂き、4月に入って市議会厚生文教常任委員会への報告、その後広報おだわらや市ホームページへの掲示、学校等への送付を行う考えでおります。皆様には、3月19日の教育委員会定例会に計画書を提出するタイミングで、定例会に付す計画書を送付させて頂きたいと考えております。2の概要版でございますが、計画本体を基にした概要版を作成いたしまして、市民周知等々に活用する考えでおります。説明は以上です。

栢沼教育長…今後の流れの説明でしたが、何かございますでしょうか。

笠原氏…小田原市がそうというのではなく、教育委員会は広報があまり上手ではないので、丁寧に繰り返し行って頂くことで、本当の意味で生きていくと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

栢沼教育長…私どもとしても常に話していることで、特に教育関係や学校でいろいろと良いことをやろうとしても、地域や市民が知っていないように、PRの方法がうまくないと思っております。

教育部長…わかりやすい広報の仕方を考えなければいけないと思いますが、教育に対しては地域の皆様から御理解を頂いておりますし、子供たちの教育は皆様からの御理解を頂くことが一番私たちにとって力になりますので、しっかりと伝えていきたいと思っております。

栢沼教育長…それでは用意した案件は以上をもちまして全て終了させていただきます。各委員の方々には無理を言って委員をお受け頂いて、本当に一年間タイトなスケジュールの中、御出席頂き、ありがとうございました。今後とも小田原の教育にも関心を持って頂いて、気が付いたら遠慮なく御助言や御指導を頂ければありがたいと思っております。本当に長い間ありがとうございました。

教育部副部長…ありがとうございました。それでは、以上をもちまして、第5回小田原市学校教育振興基本計画策定有識者会議を終了させていただきます。一年間どうもありがとうございました。